

今年度、新潟県特別支援教育研究会（県特支研）会長を仰せつかりました。特別支援教育研究会の運営に力を尽くしてまいります。よろしくお願いいたします。

さて、去る五月東京で開かれた全日本特別支援教育研究連盟理事・評議員研究協議会に出席してまいりました。

その中で、文部科学省初等中等局特別支援教育課長様から特別支援教育行政の現状と課題と報告と題して講話がありました。冒頭、示された特別支援教育の在籍者数によりますと、平成三〇年度五月の時点で特別支援学級に在籍している児童生徒は約二五万七千人です。これは平成二九年度五月に比べ、わずか一年で約二万人増加したことになります。学校教育法が改正された平成一九年の同時期に比べると二・二六倍ということです。また、通常の学級に在籍し通級による指導を受けている児童生徒は、平成二九年度五月時点では約一〇万九千人で、平成一九年に比べ約二・四倍に増えているとのことででした。特別支援学校在籍者も七万二千人で平



新潟県特別支援教育研究会会長 江口 滋

特別支援教育の専門性の向上に向けて



第119号
令和元年7月20日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行 文久堂

成一九年の一・二倍になっています。義務教育段階の全児童生徒数が毎年数万人単位で減少している中で、特別支援教育を必要とする児童生徒は増え続けており、数字の上からも特別支援教育の充実が急務であると受け留めています。このことは、新潟県、新潟市ともに同様の傾向にあります。増加の背景には様々な要因が考えられますが、それぞれのニーズに対応するため特に支援教育を担当する教員が一層必要になつていていることは確かです。

また、特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の場での実践研究を推進すると共に、

インクルーシブ教育システムの構築が求められる中での、「通常学級における特別支援教育を進めいくこと」も欠かせません。特別支援教育に関する専門性のある教員の育成がこれまで以上に求められています。

県特支研の目的には、「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する教育の推進を図ることを目的とする」とあります。特別支援教育のニーズがある児童生徒が増加する中、専門性が高い教員の育成を初めとして、様々な取組を進めていく必要があります。当研究会としての事業がもつ重要性は高まっていると感じています。

そこで、今年度県特支研は、視覚障害部を新設しました。複合的な障害のある児童生徒への対応や視覚障害にかかる取組を多くの方に知つていただきたいのです。具体的な取組について

は今後隨時お知らせいたします。

今年度も、県特別支援教育研究会では教員のい別の研修会を目指し、各地区での研修会や障

がい別の研修会を開催します。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

令和元年度 主な行事予定

6月

特別支援学級・通級指導教室担当者名簿発刊

県特支研三役会（11日）

各研究部研修予定集約
県特支研第一回理事・評議員会（11日）

7月

会報119号発刊
言語・難聴部研修会（5日）
自閉症・情緒障害部研修会（26日）

8月

肢体不自由・病弱・身体虚弱部研究会
知的障害部研修会（5日）
上越地区特別支援教育研究大会（6日）
柏崎・刈羽大会（9日）

11月

全特連全国・関ロ大会埼玉大会（17・18日）

2月

下越地区特別支援教育研究大会（21日）
胎内市大会（21日）
中越地区特別支援教育研究大会（29日）

県特支研第二回理事会（上旬）
会報120号発刊

国や新潟県の特別支援 教育等の動向



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室

室長 大竹 嘉則

一 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力されていますことに敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

さて今秋には、国民文化祭・にいがた2019及び全国障害者芸術・文化祭にいがた大会が開催されます。県内を七つのエリアに区分し、それぞれテーマに基づいた特色ある事業が実施されます。県のホームページに紹介されていますので、ご覧いただきたいと思います。また、国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭との一体開催としています。会員の皆様からは、様々な形で大会を盛り上げていただければ幸いです。

二 個別の教育支援計画の作成・活用

次に、国の動向として昨年の八月に学校教育法施行規則の一部を改正する省令が施行されました。趣旨として、障害のある子どもやその保護者が、地域で切れ目なく支援を受けられるようになりますため、家庭と教育と福祉の一層の連携を推進することが重要であると記されています。その方策の一つとして、特別支援学校に準じ特

別支援学級、通級による指導が行われている児童生徒に対しても、個別の教育支援計画を作成することとなりました。そして、留意事項の中では、保護者と支援の考え方を共有することが示されました。

このことは、児童生徒が適切な支援を継続して受けるために重要なポイントであると考えます。年度初めにはまず、保護者から児童生徒に対する思いや願いに関する説明を受ける機会を設け、意見交換を行つていただきたいと思います。また、児童生徒の目標を検討する際には、短期的な視点と共に、将来を想定した長期的な視点からも協議することが大切です。普段の学校の様子が分からぬ保護者が検討しやすくなるよう、児童生徒の活動の様子を紹介するなど、分かりやすい説明に留意いただきたいと思います。

特別支援学級の教育課程については、児童生徒の自立と社会参加を見据え、学習上生活上の困難の改善克服を図り、生活に生きる力を育成することが基本的な考え方です。そのためには、成就感・満足感を十分に味わえるようにし、自信を高めることが何より重要です。また必要がある場合は、特別の教育課程によることができるところから、実態に応じて領域「自立活動」を設定し、生活場面を取り上げ、適切な行動の仕方を継続的・計画的に指導・支援することも有効であると考えます。

三 特別支援学級の教育課程編成

インクルーシブ教育システム構築においては、医療、福祉、保健、労働等の関係機関と密に連携して児童生徒の多様なニーズに応じることが重要です。学校からは、各地域における関係機関との連携の手順や、支援者間の情報共有の仕方等について参考となる情報提供を望む声が聞かれています。そこで、この度の法改正を機に、「個別の教育支援計画作成・活用ガイドライン」（仮称）を配布し、効果的効率的な支援計画を推進したいと考えています。

四 おわりに

いよいよ東京パラリンピックが近づいてきました。昨年、県教育広報紙「かけはし」でご紹介しましたとおり、県は現在、特別支援学校を拠点とし、障害者スポーツを積極的に取り入れた交流を推進しています。ぜひ、交流校同士が楽しさを共有できる障害者スポーツが活発に行われることを期待しています。

最後に、今後貴会がますます充実することを祈念いたしますとともに、県の特別支援教育が一層発展していくきますよう、よろしくお願い申しあげます。

この状況に対応するため、今年度県が示している「特別支援学級ガイドライン」を改定することとしています。

具体的な改訂点としては、自閉症や情緒障害を中心として、児童生徒の障害の状態等を踏まえた教育課程の考え方、操作活動や体験を多く取り入れた授業の構成、自発的な取組を促す教材・教具の紹介等のページを加えたいと考えています。

令和元年度 県特支研 役員

※敬称略

会長	江口 滋（鏡淵小）		
副会長	新崎 俊博（南本町小）	小林 徹哉（裏館小）	阿部 隆一（新潟市立東特別支援）
理事	①加藤 晃（新井中央小） ④小杉 洋一（今町小） ⑦田邊 裕一（新津第一小） ⑩井上 正裕（外ヶ輪小） ⑬渡邊 正人（真野中） ⑯石黒 英巳（見附市立見附特別支援）	②山賀 吉一（大洲小） ⑤田村 剛（北辰小） ⑧小林 裕之（竹尾小） ⑪小山 和浩（山辺里小） ⑭小玉 義明（県立はまなす特別支援）	③中田 仁司（千手小） ⑥田村 祐一（新津第五中） ⑨生田 雅之（女池小） ⑫有本 秀雄（五泉小） ⑯池龜 守之（県立五泉特別支援）
会計監査	山本 修（糸魚川小）	櫻井 真理（新町小）	佐藤 元彦（水原小）

令和元年度 県特支研 評議員

※敬称略

上越	栗岡 秀明（飯小） 田村 雅人（牧中）	柏崎・刈羽	茂木 徹（日吉小） 佐藤 秀樹（南中）
糸魚川	松澤 隆（大和川小）	妙 高	江口 克也（斐太北小）
長岡・三島	西本 直史（栖吉小） 阿部 尚之（大島中）	三条	上村 満（長沢小） 中村 義則（第一中）
燕・弥彦	小畠一二美（燕西小）	加茂・南蒲	小松 直樹（田上小）
見附	伊藤 純子（名木野小）	小千谷	森田 隆行（小千谷市立総合支援学校）
十日町・中魚	桜井 明（川治小）	魚沼	川池 雅樹（広神西小）
南魚沼	須田 雄一（湯沢中）	新発田	濱田 浩昭（菅谷小）
北蒲	六井 和幸（蓮野小）	胎内	松原 利弘（きのと小）
村上・岩船	村山 敬介（関川中）	五泉	辻川 英夫（五泉北中）
阿賀野	佐藤 進（堀越小）	東蒲	武藤 常男（津川小）
佐渡	杉坂 芳文（加茂小）	新潟・北区	戸川 美子（早通南小）
新潟・江南区	青木 清美（曾野木小）	新潟・江南区	塙田 信明（曾野木中）
新潟・秋葉区	渡辺富美子（新津第二小）	新潟・南区	中林 浩子（白南中）
新潟・南区	八島 利憲（小林中）	新潟・西区	金子 淳嗣（五十嵐小）
新潟・西区	星野 亨（赤塚小）	新潟・西蒲区	渡貫 郁乃（鎧郷小）
新潟・西蒲区	高橋由美子（升潟小）	視覚障害	南 誠（県立新潟盲）
聴覚障害	西山 正樹（県立長岡聾）	病弱	横尾 浩（県立柏崎特別支援）
肢体不自由	高橋 淳（県立東新潟特別支援）	知的障害	水谷 武（新大附属特別支援）

県特支研のホームページをご覧下さい

県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらから



新潟県特別支援教育研究会

事業 地区 大会 実践紹介
地区大会 実践紹介
研究部 お問い合わせ
連絡会・懇親会
会員登録

01.6.27 更新

〒951-8131
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
新潟県特別支援教育研究会 事務局
TEL 025-265-4111 Fax 025-265-4112

地区大会や研究部研修会の情報はこちら

理事会・評議員会の様子を紹介します。

全特連関プロ大会等の様子を紹介します。
全特連HPへリンクされてます。

令和元年度 研究大会の紹介

全国特別支援教育研究連盟関連

詳しくは全特連HPをご覧ください。[\[https://manavia.net/community/16\]](https://manavia.net/community/16)

第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会 埼玉大会

第53回全特連関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 埼玉大会

テーマ 「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」

～一人一人の教育的ニーズに応じる教育の充実を求めて～

10月17・18日 大宮ソニックシティホール さいたま市内小中特支学校 他

第3分科会 「幼児期の特別支援教育と幼保小の連携」

司会者 妙高市立新井中央小学校 小嶋 恵美 教諭

第9分科会 「通常の学級における児童生徒の支援と授業改善」(小・中学校)

提案者 上越市立南本町小学校 山崎 彰 教諭

司会者 糸魚川市立大和川小学校 丸山 敦子 教諭

助言者 県教育庁義務教育課特別支援教育推進室 正田 敦士 指導主事

新潟県特別支援教育研究会関連

地区大会の予定

○上越柏崎刈羽大会 8月9日(金)

会場 刈羽村生涯学習センターラピカ
刈羽村農村環境改善センター

刈羽村立刈羽小・中学校

大会主題 「共生社会の実現を目指した切れ目ない
一貫した指導・支援の在り方」

講師 和歌山大学大学院教育学研究科
教授 武田 鉄郎 様

○中越県央大会 11月29日(金)

会場 三条市農村環境改善センター
三条市役所栄庁舎
三条市栄体育館

大会主題 「一人一人の教育的ニーズに応じる
特別支援教育の推進」

講師 山形大学大学院教育実践研究科
教授 三浦 光哉 様

○下越胎内市大会 11月21日(木)

会場 胎内市産業文化会館

大会主題 「多様な学びの場で、共に学ぶ
特別支援教育の充実を目指して」

内容 6分科会で提案者を1名として
十分な協議時間を確保
新潟県・新潟市主導主事からの指導

各研究部の研修会予定

○知的障害部 8月5日(月)13:40~

会場：新潟市江南区文化会館
講演：「インクルーシブ教育システムの構築と知的障害
のある子どもの教育 ー指導の在り方・授業ー」
講師：新潟大学教職大学院
教授 長澤 正樹 様

○自閉症・情緒障害部 8月6日(火)14:00~

会場：中之島文化センター
講演：「学習力、生活力を育てる『自立活動』の指導」
講師：国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
主任研究員 柳澤亜希子 様

○肢体不自由・病弱・身体虚弱部

8月5日(月)10:15~
会場：見附市立今町小学校
講演：「病弱児や肢体不自由児、重複児の自立活動の事例」
講師：県教育庁義務教育課特別支援教育推進室
指導主事 中静 康弘 様

○言語・難聴部 7月26日(金)13:00~

会場：新潟市 天寿園
講演：「難聴・言語障害教育担当者として
大切にしたいこと」
講師：国立特別支援教育総合研究所研究事業部
上席総括研究員 牧野 泰美 様

○視覚障害部 7月31日(水)13:30~

会場：新潟ふれ愛プラザ
講演：「弱視児童生徒への指導と学習支援
～弱視通級学級での実践を通して～」
講師：東京都葛飾区住吉小学校
教諭 佐島 順子 様

県特支研だよりNo.「119号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。
(事務局)